



セルフトレーニング

—チェックリスト問題と解答—

解答は 116 ページ

Check list

CHECK 現在、高度肥満症に対する外科的治療として主に
1 行われているものを2つ選べ。

- A. 内視鏡的胃内バルーン留置術
- B. 垂直遮断胃形成術
- C. 腹腔鏡下調節性胃バンディング術 (laparoscopic adjustable gastric banding; LAGB)
- D. 腹腔鏡下 Roux-en-Y 胃バイパス術 (laparoscopic Roux-en-Y gastric bypass; RYGB)
- E. 胆膵バイパス術 (biliopancreatic diversion with duodenal switch; BPD/DS)

CHECK 肥満外科手術の効果として誤っているものをひとつ
2 選べ。

- A. 体重減少
- B. 糖尿病の改善
- C. がん発生率の増加
- D. 長期予後の改善
- E. 医療費の軽減

CHECK 正しいものを2つを選べ。
3

- A. 日本人の2型糖尿病はBMI 25以上の比較的軽度の肥満でも発症が増加することが知られている。
- B. 肥満2型糖尿病の薬物治療において、SU薬とチアゾリジン薬の併用は体重減少をもたらしやすいことが知られている。
- C. 大規模試験により、bariatric surgery後の長期的な2型糖尿病の予後については、LAGBのほうがRYGBよりも優れていることが示されている。
- D. bariatric surgery後の血糖コントロールの改善は、食事量の減少によりほぼ説明がつく。

E. 一般に、RYGB後の食後インクレチン分泌は上昇していることが多い。

CHECK 肥満外科手術で正しいものはどれか、ひとつ選べ。
4

- A. 高度肥満合併糖尿病に対しての肥満外科手術症例数は近年少しずつ増加しているが、世界的にまだ数千例にすぎない。
- B. 日本での肥満外科手術の現時点での適応基準は、肥満2度以上(BMI 30以上)の高度の肥満症で、肥満に起因する健康障害を持つ症例とされている。
- C. 胃バイパス術は、摂食量の制限作用と栄養物の消化吸収の抑制作用を持ち、スリーブ胃切除術に比較すると減量効果は強いとされる。
- D. 肥満外科手術に伴う糖尿病の改善効果は、胃の容量制限による摂食量の低下に伴う減量効果が大部分を占める。
- E. 難治性のうつ病に伴う摂食障害や過食症などの症例に対して、肥満外科手術は非常に効果的と考えられる。

CHECK 世界中で、高度肥満症患者に対して肥満外科手術
を最も多く行っている国をひとつ選べ。
5

- A. フランス
- B. メキシコ
- C. ブラジル
- D. 米国
- E. オーストラリア

CHECK 東アジア地域で、高度肥満症患者に対して肥満外科
手術を最も多く行っている国や地域をひとつ選べ。
6

- A. 台湾
- B. 韓国
- C. 香港
- D. 日本
- E. フィリピン

CHECK 胃バンディング術について正しいものはどれか。
7

- A. 腹腔鏡下手術よりも開腹手術で行われている。
- B. malabsorptive procedureに分類される。
- C. 胃静脈瘤を認めない肝硬変患者は適応である。
- D. 2型糖尿病に対しても治療効果が期待できる。
- E. 術後の静脈血栓塞栓症の発生率は高率である。

CHECK 高度肥満症に対する治療法である内視鏡的胃内バ
ルーン留置について、以下の文章のなかで正しいも
のをひとつ選べ。
8

- A. 日本でもすでに広く普及され、保険診療として一般的に行われている。
- B. 専用バルーンの留置期間は1年間である。
- C. バルーンの留置期間中は食事療法の併用はとくに必要ない。
- D. 日本の関連学会が最初に設けた適応基準は、BMI \geq 30である。
- E. 海外の大規模試験でも安全性は高いが、胃手術の既往がある場合は、死亡例があるため禁忌である。

CHECK 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術について、誤ってい
るものをひとつ選べ。
9

- A. 厚労省の先進医療に承認されている。
- B. 消化管吻合がない手術である。
- C. 本手術による糖尿病の改善効果は期待できない。
- D. 日本で実施されている腹腔鏡下減量外科手術で最も多い手術である。
- E. 術後糖負荷後のGLP-1の過剰分泌がみられる。

CHECK 現在世界で最も多く行われている減量手術はどれ
か、ひとつ選べ。
10

- A. Roux-en-Y胃バイパス術 (gastric bypass)
- B. 調節性胃バンディング術 (lap band)
- C. スリーブ状胃切除術 (sleeve gastrectomy)
- D. 胆膵バイパス術 (duodenal switch)
- E. 空腸-回腸バイパス術 (jejunio-ileal bypass)

CHECK 胃バイパス術について誤っているものはどれか、
ひとつ選べ。
11

- A. 多くの症例は完全腹腔鏡下で行われており、開腹手術は非常に少なくなっている。
- B. 縮小した胃の容量は約25 mlと、従来の胃容量の2%未満である。
- C. 手術死亡率は約5%である。
- D. 体重減少は、胃容量減少による食事摂取の減少と、バイパスによる栄養吸収の低下によって起こる。
- E. 糖尿病と診断されていた患者の84%で臨床的寛解が得られ、糖尿病治療薬の投与が長期にわたって不要になる。

◆ 問題作成者 (五十音順)

- 稲嶺 進 社会医療法人敬愛会中頭病院 内視鏡手術センター 消化器外科
- 太田正之 大分大学 医学部 第一外科
- 北野正剛 大分大学 医学部 第一外科
- 佐々木 章 岩手医科大学 医学部 外科学講座
- 畑尾史彦 東京大学医学部附属病院 胃食道外科
- 羽田裕亮 東京大学大学院 医学系研究科 糖尿病・代謝内科
- 正木孝幸 大分大学 医学部 総合内科学 第一講座
- 山本 寛 滋賀医科大学 外科学講座